九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

A Nationwide, Cross-sectional Survey on Unusual Sleep Postures and Sleep-disordered Breathing-related Symptoms in People with Down Syndrome

黒田, 裕美

https://hdl.handle.net/2324/1866261

出版情報：九州大学, 2017, 博士（看護学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）

（様式６－２）

氏　　名	黒田　裕美
論　文　名	A Nationwide, Cross-sectional Survey on Unusual Sleep Postures and Sleep-disordered Breathing-related Symptoms in People with Down Syndrome （ダウン症者における特異な睡眠体位と睡眠呼吸障害に関する全国調査）
論文調査委員	主　査　　九州大学　教授　谷口　初美 副　査　　九州大学　教授　藤田　君支 副　査　　九州大学　教授　加来　恒壽

論　文　審　査　の　結　果　の　要　旨

本研究の目的は、ダウン症（Down Syndrome, DS）者における特異な睡眠体位や睡眠呼吸障害（Sleep Disordered Breathing, SDB）関連症状（いびき、無呼吸、夜間の覚醒、日中の異常な眠気）の実態を調査し、これらの関連を明らかにすることである。方法は、日本ダウン症協会の支援で全国 21 都道府県下のダウン症者 2000 名の養育者（親）を対象に自記式質問紙調査を実施した。調査内容は、基礎的属性（年齢、性別、身長、体重）、医学的特徴（筋緊張低下と甲状腺機能低下症の既往歴）、SDB 関連症状（いびき、無呼吸、夜間の覚醒、日中の異常な眠気：日本版エプワース眠気尺度）であった。

結果、ダウン症者の養育者 1222 名から回答があり、1149 名を分析対象とした。特異な睡眠体位を有している DS 者は 1149 名中 483 名（42.0%）であり、年齢ともに減少した($p<0.001$)。特異な睡眠体位では、全ての年齢群において座位より座臥位が多かった。特異な睡眠体位と基礎的属性や医学的特徴、SDB 関連症状との関連は二項ロジスティック回帰分析を用い、オッズ比（Odds ratio, OR）と 95%信頼区間（Confidence interval, CI）で示した。特異な睡眠体位と基礎的属性及び医学的特徴との関連では、特異な睡眠体位はより年齢が若い者（OR=0.93、95% CI: 0.91–0.94、$p<0.001$）や、筋緊張低下がある者（OR=1.65、95% CI: 1.19 - 2.31、$p<0.01$）で認められた。さらに、特異な睡眠体位がある者はない者と比較して、睡眠呼吸障害関連症状が有意に多く認められた。

本研究は、ダウン症者の特異な睡眠体位に着目し、その特異体位と睡眠呼吸障害の関連症状を調査した初めての成人も含めた全国調査であり、結果として特異な睡眠体位は SDB の存在を示唆しており、このことから、上気道の閉塞に対するダウン症者の自己防衛的行動であるという仮説を強化できたと考えられ、今後のダウン症者の睡眠呼吸障害のスクリーニングや早期受診の保健指導につなげる意義ある研究結果と考えられる。予備調査において、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答をえた。よって本論文は予備調査委員合議の上、博士（看護学）の学位に値する論文として価値あるものと認める。